1996年に東京都葛飾区の自宅で上智大4年の小林順子さん＝当時(21)＝が殺害、放火された事件は、未解決のまま9日で発生から28年になる。姉の熊田亜希子さん(53)＝岐阜市＝は妹がくれた金色のピアスを大切にしている。「妹が生きたかった日々を、しっかりと生きていく。見守ってくれていると思う」。数少ない形見は、今も変わらず輝いている。

熊田亜希子さんが妹の小林順子さんからもらった金色のピアス＝8月、岐阜市

上智大生殺害、未解決のまま28年

奪われた未来「どうして」

岐阜市在住の姉、形見のピアス大切に

96年9月7日、留学で4日後に米シアトルへ旅立つ順子さんに、食事に誘われた。仕事や学業で互いに忙しく、めったになかった2人での外出。電車を待つ駅のホームや店で、恋人との近況など、たわいない話に花が咲いた。帰りに寄った店で選んでくれた藤色の花柄ワンピースを買った。事件2日前のことだった。

翻訳の仕事に就く夢を抱いていた順子さん。自宅2階にある妹の部屋のガラス戸越しに、深夜まで漏れていた勉強机の明かりが記憶に残る。

警察署の遺体安置室で会った妹は、悲しげで泣き疲れたような表情を浮かべていた。「なぜこんな目に遭わないといけないの…」。自宅は燃やされ、花柄のワンピースは一度も袖を通すことなく焼けた。同じものを探したが見つからず、似たものをひつぎに収めた。

「もっと順子と話をすればよかった」。つらさを押し殺し、悲しむ両親の前では気丈に振る舞ったが、結婚し東京を離れると緊張が解け気がふさいだ。犯人は捕まらないまま順子さんが生きた年数以上の時間が過ぎた。

2022年、大学生になった長女が米国に留学し、滞在中にシアトル大を訪問した。順子さんが通うはずだった大学。写真に納まる長女の姿は、妹の面影と重なった。

順子さんとの思い出が残るものは事件直前の箱根旅行で一緒に撮った写真などわずかだけ。海外旅行先でお土産として買ってきてくれたピアスは身に着けていたため、焼けずに済んだ。「順子と離れた時間があまりにも長くなってしまった」。希望にあふれていた妹の未来は突然途絶えた。なぜ、どうして。消えない思いを抱え続けている。

1996年6月、箱根旅行で撮った写真に一緒に写る小林順子さん(左)と姉の熊田亜希子さん(熊田さん提供)

上智大生殺害放火事件　1996年9月9日夕、東京都葛飾区柴又の住宅で住人の上智大4年小林順子さん＝当時(21)＝が首を刃物で刺されて殺害、放火された。手足は粘着テープやストッキングで縛られ、遺体にかけられた布団などに容疑者のものとみられるA型の血液が付着。男のDNA型が検出された。事件直前、住宅近くに黄土色のコートを着た男が立っていたという目撃情報があるが、人物の特定には至っていない。情報提供は警視庁亀有署、電話03(3607)0110。